

現した。

Belonidae gen. sp. ダツ種不明 (2回出現、2尾)

1972年8月、B-8に全長12.9mm、1尾、1973年の同月、同地点に全長17.0mm、1尾が出現した。

16. Scombrsocidae サンマ科 (37回出現、292尾)

Cololabis saira (BREVOORT) サンマ (37回出現、292尾)

1月から3月まで、黒潮主流域の東側、沖縄近海および沿岸域に出現し、出現盛期は1月、1日中の時刻別出現個体数は図-13に示された。1網当りの出現個体数は0.8-1.0時が最も多く3尾、18-20時に最も低く0である。昼、夜のサンマの出現個体数比率は1対0.37で昼間は約3倍も多く出現した。

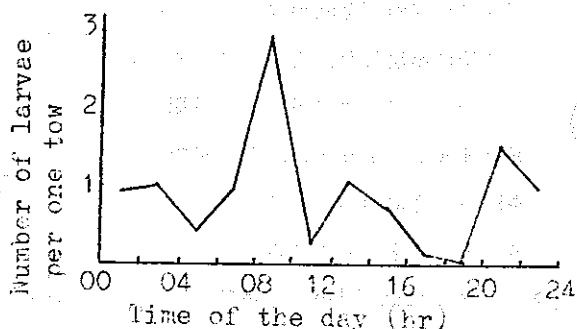


Figure - 13 Relationship between time of the day and occurrence of Cololabis saira per one tow

サンマの出現地点の表面水温の範囲は20.7-22.7°Cで、表面水温階層別に1網当りの出現個体数をみると図-14に示された。20-22°Cの階層に集中して出現し、個体数加重平均水温は21.5°C、出現地点数加重平均水温は21.8°Cで両者にはほとんど

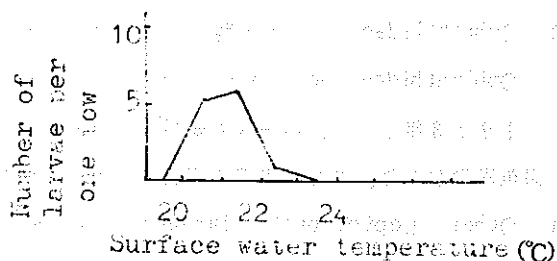


Figure - 14 Relationship between surface water temperature and occurrence of Cololabis saira per one tow

差がない。すなわち沖縄近海におけるサンマの稚仔魚は表面水温が2.1°C前後の海域に最も多く出現し、それは沖縄近海では1月から3月までの水温となる。

1973年から1975年までの3ヶ年間のサンマの出現個体数を比較すると、1973年を100とした場合1974年は585、1975年は32となり、各年ごとの出現個体数の増減が大きい。年ごとの各月の出現状況は、1月は各年とも沖縄南東部海域に集中し、一部は北西部海域に出現した。2月は沖縄南東部海域のみに出現し、3月には沖縄南部海域および北西部海域に出現した。各月別の全長組成を示すと図-15の通りになる。1月は5.3-37.7mmの全長範囲でモードは10.1-14.0mmにある。2月は7.5-42.4mmの全長範囲で、モードは12.1-16.0mm、3月は出現個体数は少ないが、11.0-46.0mmの全長範囲で、モードは14.1-16.0mmにある。